

令和7年度

徳島県立川島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

校長

阿部 憲市

学力向上推進員

安部 恭美

【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目で、授業に前向きに取り組むので、授業の内容は理解できている。 ○タブレット端末の操作に慣れてきている。 ●自分で復習する習慣が身に付いておらず、知識が定着していない生徒がいる。	・知識や技能を身に付けることのよさがわかり、自学・復習できる自律的な学習習慣が身に付いている。 ・ICTを活用でき、自分に必要な情報を収集・選択することができる。	・小テスト・単元テスト等を行い、「できる」を実感させるとともに、復習の仕方を身に付けさせる。 ・質問タイムで、わからないところを質問できるようにする。 ・ICTの活用の仕方を教える。 ・タブレット端末を活用し、自分のペースで、くり返し学習に取り組めるようにする。	・発表やレポートの資料の作成時に、自分に合ったアプリを選択できるように、様々なアプリの使い方を教える。	・小テストや単元テストなどの定着確認のためのテストを行い、理解し切れていない部分は、そこですぐに復習する仕組みを作り、理解できるようになるまで、チャレンジできる機会を与えた。 ・分からないところの質問ができるように質問タイムを設定したが、何を質問すればよいのか分からない生徒もいる状況があった。 ・タブレット端末を用いて、情報の収集やスライド・レポートの作成などを行い、ICTの様々な使い方の仕方を学ばせている。	・短期記憶を長期記憶に変えていくための反復学習に取り組めるようにする。 ・小テストや単元テスト等の評価の公平性や妥当性について検討する。 ・AIDリルを活用し、生徒が個に応じて学習内容を選択できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレット端末を使用して、自分で工夫しながら表現できる。 ○話し合いで意見を交換することに進んで参加できる。 ●主体的に考え行動したり、互いの意見から考えを深めたりすることが苦手な生徒が多い。 ●知識の関連付けが苦手で、筋道が立てられない。	・探究活動を通して、課題の設定をしたり、必要な情報を判断したり、自分の考えを自分なりに工夫して表現できたりする。 ・話し合い活動において、互いの考えを尊重し、考えを比較したり、疑問点を質問し合ったりして、考えを深めることができる。	・探究学習の過程の流れについて教員間で共有し、フォーマットをつくるなどして、流れを理解させる。 ・ICTを活用して、発表等の言語活動を行う。また、自分と他者との意見を比較・検討し、考えを深めさせる。 ・知的好奇心を喚起させ、他者とのやりとりを通して思考が深まる手立てを仕組む。	・外部講師との交流を取り入れ、他者から感想やアドバイスをもらうことで、多角的な視点で考えられるようにする。	・学習の過程で出てきた疑問や知りたいことから学びを深められるように発問等の工夫をした。 ・発表や学び合い等の場面を設定し、他者と学びを共有させ、自分の理解や考えを深めさせることにつなげた。 ・振り返りシートを作成し、自分の学びを自分の言葉で表現し、授業を振り返ったり、見返したりして、比較・検討できるようにした。	・次の学習や生活に生かす場面をつくる。 ・探究活動の流れのフォーマットを統一する。 ・言語活動におけるICTの使用の仕方について指導を行う。 ・インプットしたことを自分でアウトプットしようとする意欲や相手に伝えたいという気持ちをさらに向上させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた地道に学習に取り組めており、学ぼうとする意欲が高い生徒も多い。 ●決められた課題には取り組めるが、自分の弱点補強のために学習に取り組むことには課題がある。学習時間が短く、課題を出せない生徒が増えている。	・目標や見通しをもって、学習に取り組むことができる。 ・自分に合った学習方法を理解し、自分のペースで学習に取り組むことができる。	・目標や学習計画を立て、日々の学習を至誠ノートに記録することで、自らの取り組みについて振り返らせる。 ・中高一貫教育校の特色を生かし、総合的な学習の時間を中心として他学年の生徒や高校生との交流を図るなど、進路指導を充実させ、将来の展望をもたせる。 ・さまざまな学習方法を示し、生徒が自分に合った方法を試すことができるようにする。	・中高でめざす生徒像を設定し、共通理解を図る。	・川島中高でめざす生徒像(ALATAE-Ability)について、生徒と共有するとともに、教室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。 ・今年度は新たに高校2年生の「総合的な探究の時間」の発表会に中学3年生も参加し、高校生の姿から、高校の学習への見通しや目標をもてるようにした。 ・外部講師を招いての授業や講演を設定し、自ら学ぶためのヒントを得る機会をつくった。 ・自分のペースで学ぶことができるよう授業ノートをMmtaMoJJIにアップロードしたり、解説を配付したりしている。	・総合的な学習の時間において、6年間を通した取り組みのさらなる充実を図る。そのために、めざす生徒像とともに6年間を見通した系統的なカリキュラムの作成に取り組む。 ・朝の学習の時間に定期的に計画を立てさせたり、日記などで振り返りをさせたりする取組を継続し、生徒が学び方を身に付けられるように支援を行っていく。